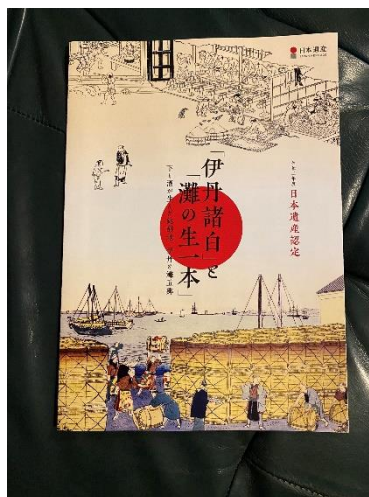


《醸造の世界を楽しむ》

2022 年 5 月 28 日

【灘五郷で酒蔵巡りを楽しむ一日】

今回は初めての校外学習ということで、「酒蔵見学ツアー」へ出かけました。
行先は「灘の生一本」で知られる灘五郷。西宮市と神戸市の沿岸部に広がり、令和 2 年、伊丹と共に日本遺産に認定された「日本一の酒どころ」です。



西郷、御影郷、魚崎郷、西宮郷、今津郷の地域からなる灘五郷は、「宮水」「優れた酒米」「酒造に適した気候」が揃う恵まれた土地と、「丹波杜氏」による「寒造り」や「三段仕込み」などの技法改良が合わさり、古くから地域ぐるみの酒造りによって栄えてきました。

この日は午前 10 時に阪神住吉駅に集合、まず向かったのは御影郷の【白鶴酒造史料館】。



ここでは実際に清酒醸造に使われていた酒蔵を改造、等身大の人形を使って昔ながらの製造工程の作業を再現しています。

次に向かったのは同じく御影郷にある【菊正宗酒造記念館】。



長屋門を抜け水車(精米小屋)のある前庭から入ると、酒造りの神・大神神社でお祓いを受けたいくつもの杉玉が迎えてくれます。

名誉館長の後藤守さんによる軽妙な説明で、楽しく酒造用具や“生酛造りの世界“を見て回ります。

昼食は魚崎郷の【櫻正宗記念館】にある「櫻宴」というお食事処で半切弁当を。



カフェや呑処も併設されている施設で、創釀400年を誇る酒造道具や看板などが展示されています。ちなみに、灘酒の源となる「宮水」はここ櫻正宗の6代目当主によって発見されたそうです。

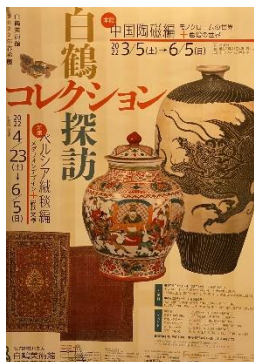
さて、クラス単位でのツアーはここまででいったん解散。

最後は希望者だけで【浜福鶴吟醸工房】へ。こちらも魚崎郷に位置します。



震災で被害を受けた時も枯れなかったこの井戸水は、断水した近隣被災者に「生命の水」として給水されたとか。ガラス越しに”発酵文化の体感空間”を見学することができました。

どの酒蔵も建物や所蔵品に趣きがあり、ショップには蔵元ならではの限定品も並びます。お酒が強くなくても、いろんな角度から楽しめそう。個人的に、次回はそれぞれの会社が所有する美術館や工房などの所蔵品を満喫してみたいと思いました。



初夏というより夏日に近い暑さも何のその、結構な距離を移動しつつ、それぞれお目当ての試飲や利き酒も堪能！ 呑むほどに酔うほどに増幅していく「百薬の長」のパワーも実感でき、まさに「醸造の世界を楽しむ」一日となりました。

